



コロナ下の都市環境とアメニティ

吉永明弘・穂鷹知美 著

ウィズ コロナ、ポスト コロナ、**必読の1冊。**

なぜ今、都市環境を考えるのか。なぜ今こそ、アメニティか。

環境倫理の第一人者・吉永明弘(法政大学教授)と、

現代ヨーロッパの社会・文化の諸課題に卓越した筆致で切り

込む穂鷹知美(スイス在住) による共著。

第1部 都市のアメニティを考える——コロナ下で見えてきたこと

第1章 自分自身の「快適な環境」に注目しよう

第4章 オギュスタン・ベルクの風土論とアメニティ整備の指針

第2章 リスク論とアメニティ論

第5章 「近所」というフロンティア

第3章 アメニティの整備をどう考えるか

第6章 人口減少時代の都市政策と住宅政策

第1部から第2部へ

第2部 コロナ危機下のヨーロッパの都市——急変した生活のなかでヨーロッパ人が求めたもの、はじめたこと

第1章 非常事態下の自宅での過ごし方

第4章 不要なところから必要なところへ届け！

第2章 コロナ禍を機に変化するヨーロッパ都市のモビリティ

第5章 オーバーツーリズムの都市と過疎地ではじまる新しい「観光」の形

第3章 ヨーロッパにおけるシェアリングエコノミー

第6章 医療破綻させないために今、スイスで起きていること

第3部 アメニティの実践者たち

【著者紹介】

吉永明弘 (よしなが あきひろ) 千葉大学大学院社会文化科学研究科修士、博士(学術)。現在、法政大学人間環境学部教授。

著書：『はじめて学ぶ環境倫理』(ちくまプリマー新書)、『ブックガイド環境倫理』(勁草書房)、『都市の環境倫理』(勁草書房)

編著：『環境倫理学』(昭和堂、共編)、『未来の環境倫理学』(勁草書房、共編)

穂鷹知美 (ほたか ともみ) 学習院大学人文科学研究科博士後期課程修士、博士(史学)。ドイツ学術交流会(DAAD)留学生としてドイツ、ライプツィヒ大学留学。日本学術振興会特別研究員(環境文化史)を経て、2006年から、スイス、ヴィンタートゥーア市 Winterthur 在住。

著書：『都市と緑—近代ドイツの緑化文化』(山川出版社)

論稿：「ヨーロッパにおけるシェアリングエコノミーのこれまでの展開と今後の展望」(『季刊 個人金融』2020年夏号)、「ネットワーク執行法でネット上の発言はどう変わったか—デジタル時代のメディアとコミュニケーション」(『ドイツ研究』56号2022年)ほか多数

ご注文は JRC へ▶▶▶ FAX 03-3294-2177

※JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です。返品は長期に承ります(返品条件付き注文扱い)。

貴店番線印	ご注文数	コロナ下の都市環境とアメニティ 吉永明弘・穂鷹知美 著
ご担当	様	定価：1650円(本体1500円+税) 新書判・240頁 ISBN978-4-910062-03-7 C1236 KMS 株式会社(環境問題出版)